

月刊 インド



Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日 印 協 会（日印間の政治・経済・文化交流に貢献して 109 年）



くさくらフェスティバル 2012 千鳥ヶ淵の桜をインド大使館より望む
談笑する森会長(左)とプラサド大使(右)＞

(2012 年 4 月 5 日 写真提供：インド大使館)

目次

1. さくらフェスティバル 2012..... P. 3
2. 今なぜタゴールか..... P. 4
3. インドニュース(2012 年 4 月)..... P. 6
4. イベント紹介..... P. 11
5. 新刊書紹介..... P. 13
6. 日印貿易概況..... P. 14
7. 掲示板..... P. 15



1. さくらフェスティバル 2012 Sakura Festival- 2012

Ms. Neeharika Singh,
Second Secretary, (Press, Information and Culture)
Director ICC, Embassy of India, Tokyo

In traditional Japanese culture, sakura trees are symbols of national identity, as well as physical manifestations of the Japanese-concept of *mono no aware* or “the poignancy of life”.

Every year, hundreds of sakura trees around Indian Embassy blossom into a snowy display of white petals. Embassy of India is celebrating the gift of the Sakura trees and enduring friendship between the people of Japan and India every year in March/April. The annual Sakura Festival is one of the largest events of Indian Embassy, with tens of thousands of visitors every year.

Last year, the event was not held due to Great East Japan Earthquake and tsunami. This year, festival was celebrated as part of the 60th year of the establishment of India and Japan diplomatic relations and started on 31 March for 10 days when the cherry trees were blooming.

Festival offered stalls selling Indian delicacies, spices, apparel, wine, shoes, jewelry etc. A variety of events, continuous performances were organized on stage including contemporary, traditional and classical Indian music, dance and Yoga demonstration. Over 300 Japanese and Indian artists performed in about 75 performances. The visitors tasted authentic Indian cuisine, applied henna designs on their hands and body, took part in sakura viewing programs and musical- cultural performances. This year's festival attracted thousands of local residents and members of the expatriate community in Tokyo.



<Opening Ceremony Puja>



日本の伝統文化においては、桜は国の象徴であるとともに「ものの哀れ」を表しています。

インド大使館の周辺では、毎年何百本もの桜の花が咲き誇り、花びらがまるで雪が積もっているかのように見えます。インド大使館では、毎年3月または4月にこの桜の贈り物と日印間に結ばれた不朽の友情を祝う「さくらフェスティバル」を行います。これは、インド大使館が行う最大の行事の一つであり、毎年多数の人が訪れます。

昨年は東日本大震災と津波が起きたため、哀悼の意を表してこの行事は中止となりました。今年は日印国交樹立60周年記念の一環として、桜が開花している3月31日から10日間にわたり開催されました。

さくらフェスティバルでは、インド料理、スパイス、衣料品、インドワイン、履き物、アクセサリ等の売店が並びました。ステージでは、インドのコンテンポラリーダンス、伝統舞踊、古典舞踊、ヨガの実演等、様々なイベントが絶え間なく行われ、延べ300人以上の日本人およびインド人のアーティストが約75の演目でパフォーマンスを行いました。フェスティバルを訪れた人たちは、本物のインド料理を味わい、手や体にヘナ・ペインティングを体験し、花見の会や音楽・文化の演目に参加しました。今年のフェスティバルには、何千人もの地元住民と東京に住むインド・コミュニティの人々が来場し、盛会を極めました。



2. 今なぜタゴールか ～タゴール生誕 150 年記念行事を振り返る～ Tagore's 150th Birth Anniversary

タゴール生誕 150 年記念会 代表・日印協会会員 河合力



Asato ma Sadgamaya
Tomaso ma Jotirgamaya
Mrityoruma Mritangamaya Ohm Santi
「虚偽より真実へ 暗黒より光明へ 我を導け」

タゴールが好んだウパニシャッド哲学の言葉です。この言葉には今の日本、世界の絶望的な現状を足元から見直し、自分たちの足で、目で過去を見つめ、自然との共生を願うメッセージがあると思います。タゴールが初めて日本を訪れた 1916 年(大正 5 年)、横浜の三溪園で下村観山の「弱法師(よろぼうし)」(能の演目で、盲目の俊徳丸が梅花の下で見えないはずの落日の気配を感じる図を描く)を見て、タゴールは当時の植民地暗黒インドの現状とウパニシャッド哲学の世界を感じ、感動しました。タゴールはその絵を所望しましたが、原画でもあったのでそれを模写することになりました。その絵を模写したのが祖父荒井寛方でそれがきっかけでタゴールから日本画教師として招聘されます。岡倉天心、横山大観、菱田春草につながる日印文化交流のひとつの流れです。

今年 2012 年 5 月 7 日、151 回目のタゴールの生誕日を迎えました。タゴール生誕 150 年記念会は昨年から 1 年間の予定の行事全てを無事終えることができました。インド大使館、日印協会をはじめ、大学、各団体からはご後援をいただき、また個人の皆様からは貴重なご寄付をいただきましたお陰と感謝しております。皆様に厚く御礼申し上げます。

振り返ってみますと、疾風怒濤の 1 年でした。一昨年暮れに何人かがタゴール生誕 150 年の記念行事を催そうと集まったのですが、肝心の資金の支援団体が見つからず昨年初めになっても定まりませんでした。そんな状況の中で我々の会も 3.11 の東日本大震災の直撃を受け、タゴール生誕の会を発足するかどうするか議論になりました。個人からの寄付は難しいだろう、生まれたばかりの資金なしの任意団体で何ができるのかと。

皆手持ち弁当のボランティアで始めましたが、こんな状況だからこそ必要と運営委員の皆の総意で始めました。お金は無いが、勢いがある任意団体が生まれました。

それからは寄付のお願い、銀行口座の設定、何の行事をするか、段取り、係りの分担、皆必死でした。皆自分の仕事を持ちながらのボランティアですから、アフターファイブ、土日をフルに使い、行事のために仕事を休んだこともありました。タゴールの力でしょう。

今回日印協会からお声をかけていただき、タゴール生誕 150 年記念会の過去 1 年間を振り返る機会をいただきました。御礼申し上げます。ホームページ(<http://www.jaip.org/tagore150japan>)にも掲載しておりますが行事毎に簡単にまとめてみました。改めて秋頃に今までの行事をまとめたものを記念誌として発行したいと思っております。(以下敬称略)

◆6 月 28 日 在京インド大使館にて「タゴール生誕 150 年記念式典」



河合代表
(筆者)

比良理事

プラサド大使と
大使夫人

インド大使、比良 日印協会理事(ICCJ 理事長)、Swami Medhasananda らのお話の後、タゴールの歌、朗読、踊り、合唱をし、震災で遅れていたタゴール生誕の式典を行う。式典には大使ご夫妻、各国大使、谷垣自民党総裁、セツト元大使、日本女子大学、慶応義塾大学、武蔵野大学、日印友好に活躍されている各界の方々総勢 200 人ほど参加。当日はNHK BS 放送「ほっと@アジア」の取材があり、7 月 25 日に放映。

←大使館でのタゴール生誕 150 年記念式典→

- ◆7月10日 賀川記念館(兵庫県神戸市)にて「タゴールの目指した美の出現」
講演:「タゴール哲学の現代的意義」精神のグローバリゼーションを求めて
野呂元良 元コルカタ総領事
タゴール詩の朗読と光の舞: 光の舞 板倉リサ / 詩の朗読 大場多美子
- ◆7月23日 横浜印度商協会(神奈川県横浜市)にて
講演:「岡倉天心とタゴールが求めた『東洋の理想』とは?」
岡倉登志 大東文化大学教授・岡倉天心曾孫
シタール演奏: 辰野基康、ベンガル人によるタゴールの歌
- ◆9月23日 たばこと塩の博物館(東京都渋谷区)にて
講演:「タゴールと荒井寛方、そして日本画「弱法師」(よろぼうし)とのつながり」
河合力 タゴール生誕 150 年記念会代表
講演:「インド近代画壇の形成とタゴール一族」
小西正捷 立教大学名誉教授
タゴールの詩と音楽の世界
- ◆10月15日 横浜山下公園(神奈川県横浜市)のディワリ・イン・ヨコハマにて
写真展示:「タゴールが生きた地、ベンガル」
- ◆10月22日 慶應義塾大学三田キャンパス(東京都港区)にて
シンポジウム:「慶應義塾とタゴール」
清家篤慶應塾長の後、セット元大使、臼田雅之、丹羽京子、外川昌彦らのナショナリズム、野口米次郎、岡倉天心等のお話、そしてアジャンタ・グプタ、リタ・カールらによるタゴール詩の朗読と歌。約 120 人が参集。
- ◆10月22日 大倉山記念館(神奈川県横浜市)にて
10月22日から毎月1回、5回にわたるタゴールの詩の朗読講座。幼稚園生、小学生、お母さんと一緒にタゴールの世界を体験。
- ◆11月13日 栃木県さくら市ミュージアム荒井寛方記念館にて
「タゴール生誕 150 年記念展 『インドを描いた作家たち』」
インド大使館からクリシュナ参事官夫妻出席。
日本在住のベンガルの人たち 26 人と同館にてタゴール歌曲と踊りを披露。文化交流を行う。
*インターネットラジオ“ラジオ・ニュームンバイ”とコラボしてタゴールの詩を朗読
URL <http://radio-new-mumbai.com/>



◆2012年3月19日 国際文化会館(東京都港区)にて

「タゴールから日本と世界へのメッセージ」

～タゴールの作品(詩・文学・絵画・音楽・舞踊)を通じて～

国際交流基金から助成金、国際文化会館の共催を受け、タゴール国際大学(Visva Bharati)からニランジャン・パネルジー、ショスティカ・ボットパッタエ、アラップ・ミトラ、ナナック・ガングリの歌、踊りの教授、タゴールについての評論家等4人を招聘しシンポジウムを開催。奈良穀東京外語大名誉教授の総合司会の下、セット元大使、小倉和夫、岡倉登志、五月女智恵、康米那、神戸朋子、高良留美子、近藤正規、佐藤志乃、高山博子、コウシク・チョードリーらの錚々たるメンバーにより、タゴールの詩、音楽、踊り、絵画の世界を披露。



〈国際文化会館での聴講者達〉

◆4月13日 栃木県さくら市ミュージアム荒井寛方記念館にて

「タゴール 日本との出会い」写真展

インド大使館からパンダ公使ご夫妻出席

◆4月21日 日本女子大学目白キャンパス(東京都文京区)にて

「タゴールと日本女子大学」

蟻川芳子日本女子大学学長の後、臼杵陽、後藤祥子、内山真理子、鈴木千歳、高良留美子のお話、奥田由佳の歌、辰野元康のシタール演奏、そして日本女子大学付属高校ならではのタゴールゼミ生徒の発表。同時にタゴールの直筆の絵画・書、レコード、手紙等今回初めてのお宝を展示。

この行事を始める前にはタゴールって誰？と日本の多くの方々に忘れられた存在と感じていましたが、行事の最後となった日本女子大学では多くの卒業生がタゴールを深く心に刻んでおられることに感激しました。この一年間を通じて色々の方々との出会いを感謝しております。タゴールはまだ日本で忘れられていない、タゴールのメッセージ、自然との共生、東西の融和、そして平和(戦争の無いという意味と、心の平安、シャンティ)は日本、世界に今こそ必要で、これからも皆様とご一緒にタゴールを学んでいきたいと思っております。

“いまから 100 年後に 私の詩の葉を 心をこめて読んでくれる人 君は誰か……”

(タゴール詩「100 年後」より)

改めてこの1年間のご支援ありがとうございました。皆様のご健康を念じてご挨拶とさせていただきます。

〈筆者紹介〉 河合 力(かわい つとむ)

1951年6月27日生まれ、1974年慶応義塾大学卒後、商社勤務。

日本美術院同人荒井寛方の孫(寛方は1916年タゴールに招聘され日本画教師としてインドに2年滞在)であり、寛方・タゴール会事務局長、タゴール生誕150年記念会代表を務める。

3. インドニュース(2012年4月) News from India

I. 内政

4月1日

- 英字各紙は、ジャヤラリータ・タミル・ナードゥ州首相が、昨年12月に全インド・アンナ・ドラビダ連盟(AIADMK)から追放した側近のサシカラ女史の謝罪を受け入れ、3月31日に同党への復帰を強化した旨発表。

メモ:

報道によれば、サシカラ女史がジャヤラリータ州首相により追放され後に復帰したのは、1996年に次いで2回目。また、サシカラ女史の夫ナタラジャンやその他親族の復帰は許可されておらず、これらの者とは引き続き接触しないように警告を発している由。

4月9日

- 英字各紙は、8日に、アーンドラ・プラデーシュ州ハイデラバードの旧市街地(マダナペット地区)で、ヒンドゥー教徒とイスラム教徒の住民数百名同士が対立する暴動が発生し、数名の負傷者がでた他、治安当局により夜間外出禁止令が出された旨報道。

4月13日

- 英字各紙は、3月14日にオディシヤ州でマオイストに誘拐されたイタリア人2名のうち、残りの1名が12日に解放された旨報道。

メモ:

3月14日にオディシヤ州でトレッキング中にマオイストに誘拐されたイタリア人2名のうち、母国からの観光客であった1名は3月25日に解放されたが、20年間オディシヤ州に居住し旅行者を営んでいるもう1名(ボスコ氏)については、マオイスト側が仲間の釈放を求めて引き続き拘束されていたもの。今回、オディシヤ州政府側は、ボスコ氏解放のために、5人のマオイストの釈放に同意した他、マオイスト側の13項目に及ぶ要求に関する共同声明に署名した由。

4月18日

- 英字各紙は、4月15日にデリー市議会議員選挙が投票され、17日に開票が行われたとして、その開票結果を発表。

メモ:

デリー準州は、デリー市当局(MCD)、ニュー・デリー市当局(NDMC)及び軍関連地域の3つの行政区に分かれているが、今回はそのうちのMCDの議会議員を選出するために行われたもの。また、これまでMCDは1つの行政区であったが、昨年3月に法律が改正され、3つの行政区域に分かれ、それぞれの区域に議会が設けられることとなった(この結果、デリーの行政区域は5つに)。今回の3つの区域での選挙ではすべての区域でBJPが第1党になった。

4月19日

- タイムズ・オブ・インディア紙は、射程 5,000 km以上(中国全土を射程に収めることが可能)の、核搭載可能な3段式ミサイル「アグニ 5」の初めての試射がオディシヤ州ホイーラー島で行われ、同実験が成功した旨報道。

メモ:

同紙は、今回の実験は、米、露、中、仏、英から成る排他的な大陸間弾道ミサイル(ICBM)クラブへの参加を目指すもので、試射成功により、インドは主要なミサイル大国になったと報じている他、今後4~5回の試射及びユーザー・トライアルの後、2014年~15年までに完全に運用可能となるであろうと述べている。また、「アグニ 5」は北京や中国東北部も射程内に収めるものであるが、今回の試射成功に対し中国外交部の報道官は、我々は関連報道に注意しているとしながらも、インドと中国は競争すべきライバルではなく協力パートナーであり、地域と世界の平和と安定を守るために貢献していく旨述べるにとどめており、少なくとも公式な場での懸念表明や抗議等を行っていない。

4月22日

- 英字各紙は、21日、反汚職委員会特別法廷は、イエドゥラッパ前カルナータカ州首相による不動産開発業者への土地開発許可不法付与疑惑等数件の疑惑につき5月24日に審理を行うことを決め、同前首相や息子2人、義理の息子1人に出廷を命じた旨報道。

4月23日

- 英字各紙は、22日、チャッティースガル州スクマ県で、インド人徴税官(高級官僚; IAS)が、ナクサライト約90名に襲撃され、誘拐された旨報道。襲撃の際、警護員2名が射殺され、ナクサライト側は拘束中の仲間の釈放を要求している由。

4月24日

- インディアン・エクスプレス紙は、ナラヤナサミ首相府閣外相が、クダンクラム原発1号機が40日後に発電を開始すると述べた旨報道

4月27日

- 英字各紙は、3月24日にマオイストにより誘拐されたヒカカ・オディシヤ州議会議員が、4月26日にオディシヤ州南部コラプート県で解放された旨報道。

4月28日

- ヒンドゥー紙は、インド海軍がステルス・フリゲート艦「INS Teg」を就役させた旨報道。

メモ:

報道によれば、ロシアのカリーニングラードのヤンタル造船所において同フリゲート艦の竣工式が行われ、印海軍に引き渡された。6月末にはインドに到着予定。同艦はフリゲート艦の2番艦であり、3番艦が2012年9月に、4番艦が2013年中旬に、いずれもロシアのヤンタル造船所においてインド海軍に引き渡される予定。

Ⅱ. 経済

4月4日

- インディアン・エクスプレス紙は、インド政府が外国との投資協定から「国」対「投資家」の紛争解決に関する規定を削除する方向で改定交渉を行う方針である旨報道。

メモ:

報道によれば、インド政府はノルウェーのテレノールやロシアのシステムから法的手続に訴えたとの忠告を受けている他、ボーダフォンからも脅かされており、外国企業から訴えられることを恐れるあまり、投資協定から国際仲裁に関する規定を削除すべく改定交渉を行っている由。インドは約50の投資協定を締結済みで、シンガポールに対しては国内法廷のみに訴えられる規定に修正することを提案しているとのこと。

- チェンナイのエンノール港で、トヨタ・キルロスカ・モーター(TKM)の南アフリカ向け車両輸出式典が、タミル・ナードゥ州の内務・運輸大臣や同重工業大臣ら総勢約200名が出席して開催される。

メモ:

式典後には、エンノール港のバースに停泊された日本郵船の自動車運搬船にエティオス 247 台が船積みされた。TKMとしては、南アフリカ向けに年間2万台輸出することを予定している。

4月9日

- 英字各紙は、クッラー商業次官が8日付で工業次官を兼務することとなった旨報道。

メモ:

同報道によれば、今回の兼務は前任のPKチョードリー次官がハリアナ州首席次官に指名されたことを受けての措置。更に、同報道は、2月6日のインド外務省通達によれば、クッラー次官をバグワティ駐ベルギー大使の後任に任命するとともに、EU大使にも任命し、早期に着任する見込みの由。

4月10日

- インド商工省は、2012年度海外直接投資(FDI)政策を公表。

メモ:

インド商工省は、従来のFDI政策からの主要変更点に関するプレスリリースを発表した。証券市場を通じた商品取引所への外国投資については許認可を必要としなくなったことや、FDIが認められているノン・バンクの活動の明確化など、いずれも比較的マイナーなものにとどまっており、本年1月に100%のFDIが認められた「シングルブランドの小売業」に関しては投資条件の明確化等の特段の記載はなかった。また、これまで半年に1度のペースで行ってきたFDI政策の改定を、今後1年ごとにすることが明記されている。

4月13日

- ヒンドゥー紙は、12日にバンガロール市内のホテルで、2012年グローバル・インベスターズ・ミート博覧会開幕式が開催され、ゴウダ・カルナータカ州首相が挨拶を行った旨報道。

4月17日

- ヒンドゥー紙は、タミル・ナードゥ州の電力網整備計画に関し、国際協力機構の技術専門家チームが近々当地を訪問し、同計画の実施機関であるタミル・ナードゥ州送電公社と協議する予定である旨報道。
- インド準備銀行は、2010年4月以来2年ぶりとなる0.5ポイントの政策金利(レポレート)の引き下げ(8.5%→8.0%)を実施した旨発表。

4月18日

- タミル・ナードゥ州オラガダム工業団地において、ジャヤラリータ州首相が出席して、ダイムラー社の子会社であるダイムラー・インディア・コマーシャル・ヴィークルズの工場竣工式が開催される。
- インド財務省は、電力部門及び道路・高速道路の通行料徴収システムの管理運営の支出に対する外国からの商業借入の利用に関する規制緩和を発表。

メモ:

インド財務省の発表によれば、電力会社は調達した外国からの商業借入の最大 40%を上限にルピー借入の借り換えに活用できるとし、残りの 60%は新規プロジェクトの投資に活用する由。

4月19日

- クッラー商務次官は、2011年度の暫定貿易額を発表。輸出は前年度比 21%増の 3,037 億ドル、輸入は前年度比 32.1%増の 4,886 億ドルで、貿易赤字は 1,849 億ドル。
- エコノミック・タイムズ紙は、4月1日付でサイラス・ミストリー氏がタタ・サンズ社社長に就任した旨報道。

メモ:

タタ・サンズ社はラタン・タタ氏が会長と社長を兼務し、昨年 11 月にサイラス・ミストリー氏が副会長に選出されていたが、副社長では社内で指導力を発揮できないことから、今般、サイラス・ミストリー氏が副会長兼社長となったもの。なお、ラタン・タタ会長は本年 12 月に引退予定。

Ⅲ. 外交

4月3日

- 米国が2日にサイード・ラシュカレ・タイバ(LeT)指導者他1名の逮捕及び有罪判決につながる情報に対し懸賞金を出す旨発表したことに對し、インド外務省は3日、インドは今回の米国による懸賞金設定を歓迎する旨のインド政府の見解を発表。

メモ:

米国は、2008年のムンバイ連続テロ事件への関与が疑われるLeT、及びLeTのフロント団体を見られているジャマート・ウド・ダーフを外国テロ組織として指定しており、LeT創設者のハフィズ・モハンマド・サイードと、LeTの思想面でのキーパーソンとされるアブドゥル・レフマン・マッキを、個人レベルでテロリストに指定している。今回、米国政府は、サイードに1,000万米ドル、マッキに200万米ドルを、それぞれ上限とする懸賞金を出す旨発表し、インド側は、これはムンバイ・テロ事件の犯人に裁きを下し、テロとの闘いを続けることへの、印米両国のコミットメントを反映するものであるとして歓迎している。

4月8日

- パキスタンのザルダリ大統領が、ラジャスタン州アジメールにある、聖者廟へ私的訪問で向かう途中に

デリーに立ち寄り、シン首相の招きで昼食をともにし、また、昼食の前に約 40 分間シン首相とザルダリ大統領が協議及び記者会見を実施。

メモ:

首脳間の協議では、印パ間のあらゆる課題につき一步一步前進する必要があるとの認識を共有するとともに、人的交流を重視する観点から、次回内務次官級会合において査証自由化協定に署名すべき旨決定。また、4 月 7 日にパキスタン軍が駐屯するシアチェン氷河で雪崩が発生しパキスタン軍に多くの犠牲者が出たことに関し、シン首相から、必要とされる人道支援があれば喜んで支援したい旨述べ、ザルダリ大統領は、謝意を示すとともに、検討の上、必要があればその旨回答する旨応答した。

4 月 11 日

- デカン・ヘラルド紙は、イスラエル政府は 7 月にバンガロールで総領事館を開設する旨報道。イスラエルのインドでの総領事館はムンバイに次いで 2 館目。

4 月 12 日

- インド商工省は、インドを訪問中のパキスタンのファヒム商業大臣がシャルマ商工大臣とともにデリーで開催されたパキスタン物産展を視察した旨報道。

メモ:

デリーで開催されたパキスタン物産展は 2 月にパキスタンのラホールで行われた「インド・ショー」に続くもので、パキスタン全土から 100 の出展と 650 名の大型訪問団を伴って行われた。シャルマ商工大臣は、過去 5 ヶ月間に 3 回の商業大臣会合、過去 10 ヶ月間に 4 回の商務次官協議と 7 回の局長級協議を行ったと述べ、印パ間の商業関係の緊密化をアピールした。

4 月 13 日

- 北朝鮮が人工衛星と称するミサイル発射実験を行ったことに対し、インド外務省は、深刻な懸念と、安保理決議に違反する行動をとらないよう求めるプレスリリースを発出。

4 月 23 日

- インド外務省は、ナシード前モルディブ大統領が 4 月 18 日～23 日にかけてインドを訪問し、シン首相への表敬やメノン国家安全保障補佐官との会談を行った旨発表。

IV. 日印関係

4 月 5 日

- 東京で第 6 回日インド・ハイレベル経済協力政策協議が開催される。

4 月 30 日

- 玄葉外務大臣が 4 月 29 日～5 月 1 日の日程でデリーを訪問し、4 月 30 日にクリシュナ外相との間で第 6 回外相間戦略対話及び第 1 回閣僚級経済対話を実施。

今月の注目点: 第 1 回日インド閣僚級経済対話の実施

日インド閣僚級経済対話は、日インド双方で複数の省庁が関係する重要分野において閣僚レベルで迅速な調整・意思決定を行うことを目指し、2010 年 10 月のシン首相訪日時に設置に合意されたもの。今回の第 1 回の対話には、日本からは議長を務める玄葉外務大臣の他、枝野経済産業大臣、自見金融担当大臣の 3 閣僚及び総務省、財務省、国土交通省、環境省から副大臣・政務官が出席し、インド側との間で、デリー・ムンバイ間産業大動脈構想やチェンナイ・バンガロール間包括的統合マスタープラン作成等につき意見交換が行われた。

4. イベント紹介 Japan-India Events

＝◇ 最近のイベント ◇＝

◆南インド古典舞踊バラタナティヤム エミ・マユリ&ウドゥピー・ラクシュミナラヤン楽団リサイタル



去る2月19日(日)にチェンナイで開催された、Sri Partha s arathy Swami Sabha ダンスフェスティバル2012に、当協会個人会員のエミ・マユリさん(写真上 左端)が出演されました。



在チェンナイ総領事館より日印国交樹立60周年記念事業と認定され、式典では北川チェンナイ首席領事(写真上 中央)がチーフゲストとして、日本語とタミル語の類似点をユーモアを交えてスピーチされました。ご協力頂いたABK-AOTS DOSOKAI Tamilnadu Centreのランガナタン会長を始めとするインドの観客の方々も、大変興味深いテーマに聞き入り、日印交流の一場面となりました。

リサイタルは、150名の参加者を集め、現地の新聞でも多く取り上げられ、盛会裡に終了しました。(写真提供; エミ・マユリさん)



山本 正 評議員 ご逝去

かねてより、病気療養中であった山本正評議員は、4月15日に逝去されました。享年76歳でした。

東京都千代田区の聖イグナチオ教会で、4月17日(火)に通夜、4月18日(水)に葬儀ミサが行われました。当協会からは、弔電・弔花をお送りし、森会長と原常務理事が参列しました。多くの方が、山本氏の功績を称え、別れを惜しみました。

山本氏は、日本の民間国際交流のパイオニアとして知られ、1970年に日本国際交流センターを設立し、ご自身は同センターの理事長として、日本と諸外国との民間レベルでの知的交流や政策研究に尽力されました。NGO・NPOの役割を重視し、その確立にも努力され、現在の日本のシビル・ソサエティは、山本氏抜きでは語れません。

2007年に財団法人日印協会の理事に就任、2010年6月には評議員に就任されました。2010年11月に公益財団法人に移行した後も、引き続き評議員として協会の運営に関わって頂きました。ご尊父様のお仕事の関係で幼い頃に戦前のムンバイで過ごされたのも、後から考えると、ご縁があったという事でしょうか。

山本氏のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

＝◇ 今後のイベント ◇＝

◆インドを語る集い<様々なインド>第29回 『幻のマンゴー? インド産アルフォンソマンゴー』

日印協会理事であり有限会社シタール代表取締役でもある増田泰三さんを講師にお迎えし、インド産マンゴーの輸入について、お話して頂きます。

お申し込みは、先月号に同封致しました参加申込用紙をご利用下さい。皆様ご参加をお待ちしております。

日 時: 2012年5月25日(金) 18:00~19:30

会 場: 公益財団法人日印協会 事務所 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階

講 師: 増田泰三(当協会理事 有限会社シタール代表取締役)

定 員: 30名(先着順 お断りする場合のみ連絡致します)

参加費: 協会会員無料 (非会員 500円)

主 催: 公益財団法人日印協会 ☎03-5640-7604 / E-mail partner@japan-india.com

※〆切(5/14)以降でも、空きのある場合に限り受付しますので、お問い合わせ下さい。

◆写真展 仏陀の智慧の道 The Greatest Journey of Ideas : The Spread of Buddhism

印日国交樹立 60 周年を記念し、インド大使館とインド文化関係評議会 (ICCR) は築地本願寺と NPO 法人日印交流を盛り上げる会の協賛を得て、仏教写真展を開催します。写真家ビノイ K・ベール氏が 17 カ国で撮影した仏教遺跡の写真 100 点と、松本栄一氏の作品が展示されます。

日 時：2012 年 5 月 25 日 (金)～5 月 30 日 (水) 10:00～17:30

会 場：築地本願寺 本堂 東京都中央区築地 3-15-1

東京メトロ 日比谷線 築地駅 徒歩 1 分 ☎03-3541-1131 (代)

入場料：無料

ビノイ K・ベール氏による特別講演とビデオ映画上映：2012 年 5 月 29 日 (火) 14:30～16:30



◆Guru Durga Charan Ranbir “Nrutyayan” オリッシー舞踊公演

開催日時	会場	問合せ先	入場料
5月24日(木) 18:00～	経団連ホール	招待客のみ	
5月25日(金) 19:00～20:30 (18:30開場)	スペース・オルタ 横浜市港北区新横浜2-8-4 オルタナティブ生活館B1	NPO日印交流を盛り上げる会 ☎025-752-2396	当日 ¥3,000- (前売 ¥2,500-)
5月26日(土) 15:00～16:00	インド大使館ICC講堂 千代田区九段南2-2-11	インド大使館 ☎03-3262-2391	無料
5月27日(日) 15:00～16:30 (14:30開場)	新通保育園 新潟市西区新通872-2	護念寺 ☎025-268-3131	¥1,000- (子ども無料)
5月29日(火) 11:00～12:00	華嚴宗総本山 東大寺 中門 奈良市雑司町406-1	インド大使館 インディア・カルチュアル・センター ☎03-3262-2882 大阪インド総領事館 ☎06-6261-7299	無料
5月29日(火) 17:00～	大谷大学 京都市北区小山上総町	大阪インド総領事館 ☎06-6261-7299	無料

◆インドを語る集い<様々なインド>第 30 回 『変貌するインドの民衆文化』

日印協会会員でもある慶應義塾大学文学部教授の鈴木正崇さんを講師にお迎えします。

想いで深い地(ミティラー、マラバル、トゥルナードゥ)の写真を見せて頂きながら、変貌するインドについてのお話を伺います。

お申し込みは、同封致しました参加申込用紙をご利用下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：2012 年 6 月 29 日 (金) 18:00～19:30

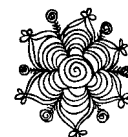
会 場：公益財団法人日印協会 事務所 東京都中央区日本橋茅場町 2-1-14 スズコービル 2 階

講 師：鈴木正崇(慶應義塾大学文学部教授)

定 員：30 名(先着順 お断りする場合のみ連絡致します)

参加費：協会会員無料 (非会員 500 円)

主 催：公益財団法人日印協会 ☎03-5640-7604 / E-mail partner@japan-india.com



◆インドシンポジウム『日印国交 60 周年を祝して ～日印関係の回顧と展望、そして提言～』開催

当協会と経済広報センターとの共催で、2012 年 7 月 2 日 (月) 13:30～16:00、経団連会館 2F 経団連ホールにて、日印両国の大使経験者らによるシンポジウムを行います。事前申し込みが必要ですが、入場無料の予定です。『月刊インド』6 月号にて詳細のご案内を致します。

5. 新刊書紹介 Books Review

§ 『ブータン人の幸福論—世界—しあわせな国』



監修：福永 正明（ふくなが まさあき）

発行：徳間書店

定価：1,200 円+税 ISBN 978-4-19-869944-8 C0036

昨年11月にブータン国王夫妻が来日され、ブータン王国が重視する国民総幸福度 (GNH) に注目が集まりました。国民の 97%が幸せであるというブータン人の言葉が詰まった本書を読めば、あなたの幸福度もきっと上がります。

ところで、「インドに近接しているとはいえ何故日印協会でブータン？」と疑問に思われていませんか。ブータンは在インド大使館が兼轄し、現ブータン大使は齋木昭隆駐印大使です。

§ 『続・駐在員のインド漫録』



著者：井上 清美（いのうえ きよみ）

発行：文芸社

定価：1,500 円+税 ISBN 978-4-286-11987-8 C0026

2010年9月に発刊された『駐在員のインド漫録』の続編です。前作同様、旅行者ではなく、駐在員(生活者)だからその目線で捉えたインドが綴られています。豊富な写真にインドへの旅情が掻き立てられ、疑問を即座に解決してくれる同一ページに記された多くの注釈によって、読む速度が加速します。読み終わった時には、またインドに行こうと思っている自分がいるのでは!?

§ 各研究機関からの機関誌の紹介(到着順)

	機関誌名	編集発行
	『現代インド研究』 第2号 2011年 Vol.22011 ISSN 2185-9833	編集：『現代インド研究』編集委員会 発行：NIHU プログラム「現代インド地域研究」 ※ http://www.indas.asafas.kyoto-u.ac.jp/cn_2 からダウンロードできます。
	『広島現代インド研究 -空間と社会』第2号 ISSN 2185-8721	編集発行： 広島大学現代インド研究センター/人間文化研究機構 地域研究推進事業「現代インド研究」広島大学拠点 ※ http://home.hiroshima-u.ac.jp/hindas/Journal2011.html からダウンロードできます。
	『アジア研究所紀要 第三十八号 (2011年)』 ISSN 0385-0439	編集兼発行者： 亜細亜大学アジア研究所
	共同研究 『多民族社会における宗教と文化』 15	編集：市野澤 潤平(共同研究代表) 発行：宮城学院女子大学キリスト教文化研究所

※当協会では会員向けに図書の貸し出しを行っております。どうぞご利用下さい。

6. 日印貿易概況 (2011年第4四半期-前年との比較)

Trade statistics between Japan & India (October-December)

(単位：100万円)

輸 出 総 額	2010年10～12月 第4・四半期	2011年10～12月 第4・四半期	輸 入 総 額	2010年10～12月 第4・四半期	2011年10～12月 第4・四半期
(日本 → インド)	214,428	226,825	(インド → 日本)	119,140	130,409
食 料 品	61	79	食 料 品	26,698	28,374
原 料 品	2,871	3,239	魚介類	10,066	12,778
鉱 物 性 燃 料	3,240	3,186	(えび)	7,746	9,953
化 学 製 品	21,191	19,073	肉類	-	0
有機化合物	7,956	4,903	穀物類	56	65
医薬品	664	483	野菜	39	70
プラスチック	6,417	6,072	果実	998	1,172
原 料 別 製 品	48,043	51,577	原 料 品	14,941	9,222
鉄鋼	30,992	31,557	木材	7	14
非鉄金属	1,493	3,886	非鉄金属鉱	889	1,768
金属製品	7,539	7,863	鉄鉱石	9,590	2,532
織物用糸・繊維製品	1,983	1,772	大豆	-	0
非金属鉱物製品	1,630	1,887	鉱 物 性 燃 料	36,232	49,317
ゴム製品	3,547	3,597	原油及び粗油	-	317
紙類・紙製品	851	1,004	石油製品	36,232	48,998
一 般 機 械	67,563	79,195	(ナフサ等)	36,220	48,989
原動機	15,845	20,813	石炭	-	1
電算機類(含周辺機器)	506	491	化 学 製 品	10,644	12,330
電算機類の部分品	366	673	有機化合物	6,519	6,867
金属加工機械	11,148	13,130	医薬品	822	1,393
ポンプ・遠心分離器	7,884	11,191	原 料 別 製 品	18,625	17,990
建設用・鉱山用機械	3,238	3,063	鉄鋼原料製品	7,038	4,588
荷役機械	2,874	4,268	非鉄金属	171	546
加熱用・冷却用機器	2,653	2,990	金属製品	434	479
繊維機械	6,375	4,493	織物用糸・繊維製品	3,280	3,817
ベアリング	1,853	2,003	ダイヤモンド加工品	6,754	7,622
電 気 機 器	38,080	37,570	貴石及び半貴石加工品	138	209
半導体等電子部品	3,429	4,754	その他非金属鉱物製品	402	253
(I C)	2,096	1,281	木製品等(除家具)	41	16
映像機器	683	1,272	一 般 機 械	2,130	2,419
(映像記録・再生機器)	596	1,200	原動機	436	431
(テレビ受像機)	87	72	電算機類(含周辺機器)	21	34
音響機器	40	68	電算機類の部分品	33	222
音響・映像機器の部分品	99	333	電 気 機 器	2,731	2,651
重電機器	11,299	6,829	半導体等電子部品	155	195
通信機	1,624	782	(I C)	41	28
電気計測機器	5,839	6,929	音響映像機器(含部品)	29	15
電気回路等の機器	7,306	9,166	(映像記録・再生機器)	-	0
電池	181	149	重電機器	510	265
輸 送 用 機 器	17,369	16,460	通信機	476	228
自動車	1,911	563	電気計測機器	204	231
(乗用車)	1,909	546	輸送用機器	996	1,339
(バス・トラック)	2	13	自動車	210	208
自動車の部分品	14,209	14,901	自動車の部分品	761	897
二輪自動車	80	91	航空機類	2	2
船舶	-	0	そ の 他	6,140	7,128
そ の 他	16,010	16,443	科学光学機器	215	333
科学光学機器	3,518	4,113	衣類・同付属品	2,310	2,654
写真用・映画用材料	1,236	948	家具	50	98
記録媒体(含記録済)	586	659	バッグ類	454	562

“0”は表示単位に満たないもの、“-”はデータの無いもの 資料：公益財団法人日本関税協会『外国貿易概況』『日本貿易月表』

7. 掲示板 Notice

＜次回の『月刊インド』の発送日＞

次回発送は2012年6月15日(金)を予定しております。催事チラシの封入をお考えの方は、日程をご確認のうえ事務局までご連絡下さい。チラシを封入する際には、当該催事の協会会員に対する割引等特典の配慮をお願いしております。チラシ印刷の前にご一考下さい。

＜お願い＞

4～5月という異動の時期でもありますが、職場の配置転換や転勤、転居等で、連絡先が変わられた方は、個人・法人にかかわらず協会宛にご連絡下さい。

また、海外向けにも発送を行っておりますので、対応可能です。ご相談ください。

ご連絡は、お電話、メール、FAX、いずれでも承っております。

会員の皆様のお手元に確実に『月刊インド』はじめ、協会からのお知らせをお届けできるよう、最大限の努力をしております。何卒ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

＜編集後記＞

「4月のデリーは気温が低め」というニュースが出ています。最高気温38.7℃で18年ぶりに40℃に達しなかったとの事ですが、それでも十分過ぎる暑さです。しかし、ほんの数℃の事であっても、農作物をはじめ各方面への影響は大きい事でしょう。

一方、日本でも連休中に天災に見舞われて、多くの方が被害に遭われました。特に自然の猛威は防げないことも多く、迫りくる竜巻が見えてはいても、どうすれば良いのか戸惑う人々の様子をテレビで見ると、備えると言っても限りがあるし、日本の自然はこんなにも厳しかったろうかと、暗澹たる気持ちになります。

被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げます。



入会随時受付中



1903年、大隈重信、澁澤榮一らによって創設された日印協会は、これまで日印の相互理解の促進を目的として、両国の友好親善に関する事業を行ってきました。今年は、日印国交樹立60周年という記念すべき年であり、これを機に両国の友好関係を更に深める為にも、協会会員の獲得は重要な課題であると考えています。

インドに興味のあるお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員・個人会員のご入会をお待ちしております。

☆年会費：個人 6,000円/□
学生 3,000円/□
一般法人会員 100,000円/□
特別法人会員 150,000円/□

☆入会金 個人 2,000円
学生 1,000円
法人 5,000円
(一般法人、特別法人会員共に)

本誌に掲載致します投稿等は、執筆者のご見解・ご意見であり、
当協会の見解を反映するものではありませんので、念のため申し添えます。

月刊インド Vol.109 No.4 (2012年5月11日発行) 発行者 平林 博 編集者 青山 鑛一
発行所 公益財団法人 日印協会
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階
Tel: 03-5640-7604 Fax: 03-5640-1576 E-mail: partner@japan-india.com
ホームページ <http://www.japan-india.com/>

